

〔学校給食需要に応えるための主要野菜の品種特性把握と出荷拡大技術〕  
給食向けタマネギ有望品種の定植日と収量性の関係および貯蔵性の評価

野口 貴・遠藤拓弥\*・海保富士男・蜷木朋子・徳田真帆  
(園芸技術科) \*現小笠原農セ

【要 約】秋まきタマネギの定植日は収量性に影響し、11月中旬の定植で高くなる。品種では「ヒーロー、七宝甘70」で収量が高い。貯蔵性の優れる品種は「もみじ3号」で、概ね11月下旬まで貯蔵可能である。

【目 的】

タマネギは学校給食で需要の高い野菜品目で、球重は2L(300g)などの大きいサイズが求められている。これまでに給食用に向けた有望品種を早生～晩生系それぞれのグループの中から選定し、播種日と収量性の関係や貯蔵方法についても検討した。今回は、有望品種の定植日と収量性の関係ならび貯蔵性について評価を行い、普及指導上の資料とする。

【方 法】

早生系、中生系、中晩～晩生系それぞれ2品種、計6品種を2020年9月18日に200穴セルトレイに播種して施設内で育苗した。11月12、18および25日に、黒マルチ9515を敷設したベッド(幅65cm、通路70cm)へ定植した。施肥は全量基肥で、N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>Oを20-18.5-18.5kg/10aとした。試験区ごとに、80%の個体が倒伏した後に収穫調査した。

収穫後は直ちに天日干しを行い、白色遮光フィルムを被覆したハウス内で貯蔵した。11月30日まで、概ね1月ごとに可販球の割合を調査した。

【成果の概要】

1. 定植苗の苗質をみると、定植日が遅い苗ほど葉鞘径が大きく、「ジェットスター」では11月12日の13日後にあたる25日には40%増加した(図1)。
2. 抽苔は「七宝甘70」の11月12日と18日定植でみられ、発生株率はそれぞれ3.3%であった(データ省略)。
3. 各品種の球重および球重をみると、どの品種も11月18日定植で高く、次いで11月12日となり、11月25日では低かった(図2)。品種では「ヒーロー、七宝甘70」で高く、この2品種は定植日による差も大きかった。規格別収量を見ると、2L～Lサイズは11月18日定植で多く、11月25日定植ではほとんど得られなかった(図3)。品種では「ヒーロー、七宝甘70」で2Lサイズが多く、Lサイズを含めると半数以上を占めた。「アトン」も2Lサイズが多かった。中～晩生品種では、定植が早いと分球が発生した。
4. 貯蔵後の可販球率は、2か月を超えると低下が顕著になった。その中でも「もみじ3号」は11月下旬まで高く維持され、80%の球で品質が保たれた(図4、5)。可販球率が次いで多かったのは「アトン」であり、11月下旬に40%程度であった。「ジェットスター」は早生品種であるが、萌芽が始まる9月下旬までは高く推移された。「もみじ3号」を除くと、どの品種も萌芽が多かった。

【残された課題・成果の活用・留意点】

11月下旬以降に出荷できる品種の選定やセット栽培技術の確立を図る。

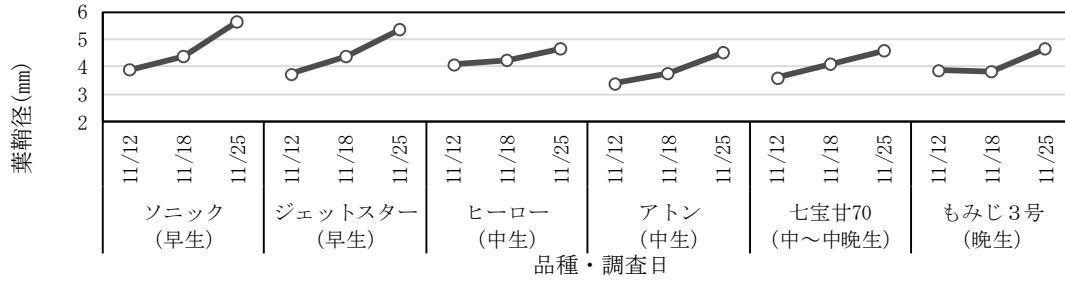


図1 供試品種の定植時の苗質 (葉鞘径)

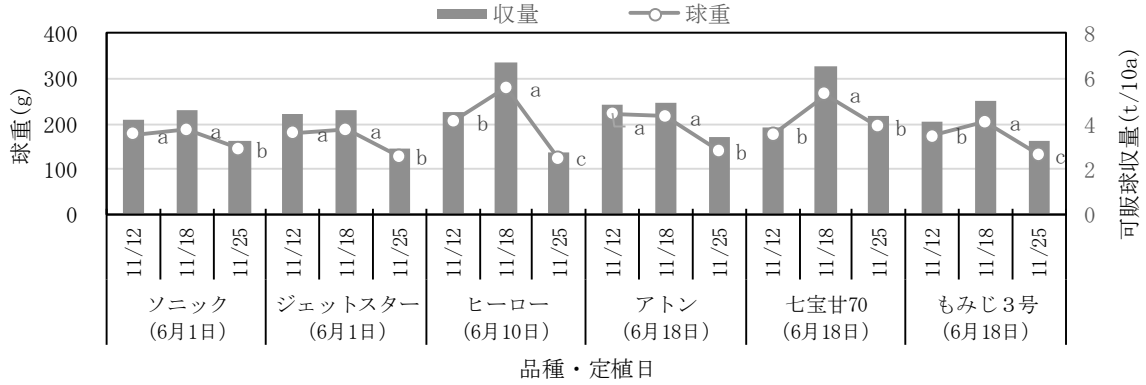


図2 定植日の違いが球重と収量に及ぼす影響

栽培条件：ベッド幅70cm, 株間15cm×5条, 通路65cm (栽植密度24.7株/m<sup>2</sup>)。  
 品種名に続く( )内の月日は収穫日を示す。折れ線グラフ上の異なる英文字間にはTukey-kramer法により5%水準で有意差がある (n=89~100)。

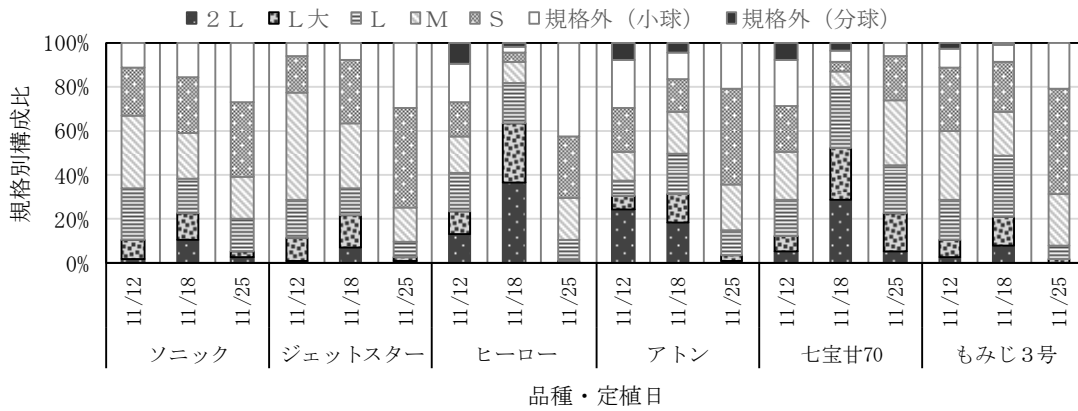


図3 定植日の違いが規格別収量に及ぼす影響

規格：2L ≥ 300g, 300g > L大 ≥ 250g, 250g > L ≥ 200g, 200g > M ≥ 150g, 150g > S ≥ 100g, 100g > 小球。

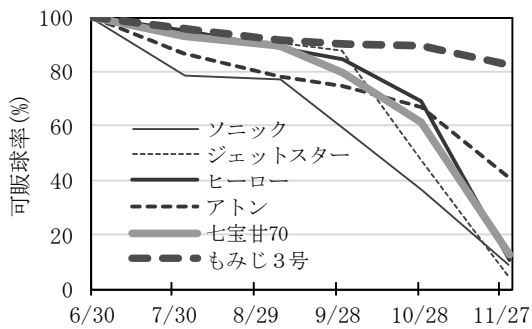


図4 貯蔵後の可販球率の変化  
貯蔵温度は最高で41℃, 最低で6℃。

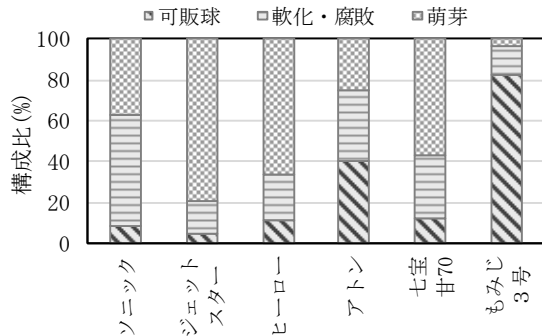


図5 6品種の貯蔵後の品質(11月30日調査)